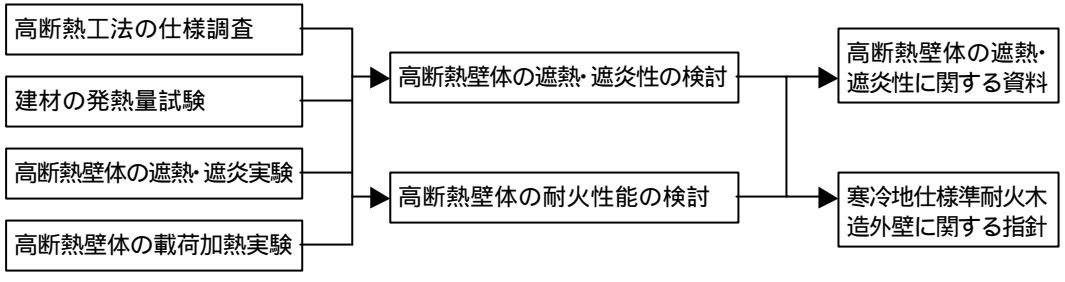


木造軸組工法による寒冷地仕様準耐火構造外壁の開発

共同研究機関名 林産試験場
担当部科 安全科学科、都市防災科、生産システム科

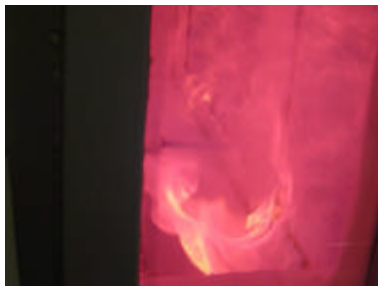
研究の目的 平成 12 年の建築基準法の改正により、防耐火性能の高い木造住宅の開発が可能になりました。本研究は、北海道に適した高断熱外壁の耐火性能を検証し、準耐火構造相当の性能を持つ木造外壁を開発するとともに、高断熱木造外壁各部の燃焼性状に関する資料を整備することを目的としています。



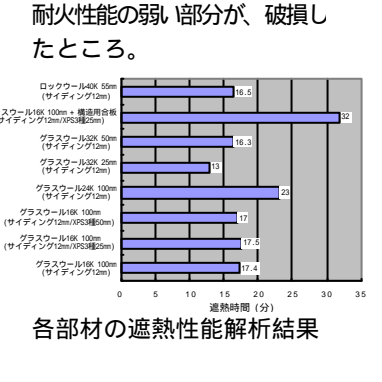
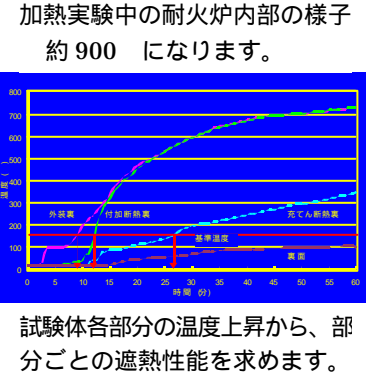
平成 14 年度の結果 北海道の高断熱住宅の外壁仕様の調査を行い、典型的な外壁構成を明らかにしました。その結果に基づき、高断熱外壁の加熱実験を行ない、遮熱・遮炎性の把握を行いました。

工法調査より、充てん、付加、外張りの 3 種類の断熱工法について、外壁構成を明らかにしました。

耐火炉を用いて、20 種類の高断熱外壁の加熱実験を行ない、遮熱・遮炎性の把握を行いました。



高断熱外壁の加熱実験
4 種類の試験体を同時に加熱して、遮熱・遮炎性を検討しました。



今後の取り組み
建材の発熱性、部材の遮熱性に関するデータの整備を行ないます。

実大壁体の载荷加熱実験を行なって、高断熱壁体の耐火性能を検証します。